

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第1回 所沢市地域福祉推進委員会
開催日時	令和7年5月30日(金) 10時00分 ~ 12時10分
開催場所	所沢市こどもと福祉の未来館1階 多目的室1・2号
出席者の氏名	中島 修(委員長)、赤坂 悦(副委員長)、荒井 由佳子、大倉 美奈子、古賀 真美子、田中 保三、高橋 祐二、吉田 早苗、村澤 洋、渡邊 雅浩
欠席者の氏名	大島 隆代、高柳 進、小松 君恵、小中学校校長会選任委員
説明者の職・氏名	地域福祉センター 主査 新井 一也、主任 飯塚 貴之
議 題	(1) 第3次所沢市地域福祉計画の進捗状況(令和6年度実績)について (2) 第4次所沢市地域福祉計画の策定にかかる市民アンケート原案について (3) 第4次所沢市地域福祉計画の策定にかかるスケジュールについて
会議資料	【配付資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・委員名簿 ・資料1 第3次所沢市地域福祉計画 目標指標一覧(R6実績) ・資料2 アンケート原案への意見 ・資料2 アンケート原案【14歳~18歳】 ・資料2 アンケート原案【19歳以上】 ・資料2 アンケート原案【団体】 ・資料3 地域ヒアリング ・資料4 会議の進め方
担当部課名	福祉部 地域福祉センター 電話04(2922)2115 越智福祉部長 大館福祉部次長 木下センター長 新井主査 伊藤主査 飯塚主任

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>1 開 会</p> <p>開会を宣言した。</p> <p>欠席者の報告 大島委員、高柳委員、小松委員、小中学校校長会選任委員</p> <p>令和 7 年 4 月 1 日付けで委嘱された渡邊委員の委嘱状を交付した。</p> <p>傍聴希望者の有無 3 名</p> <p>資料の確認 配付資料を確認した。</p>
中島委員長	<p>2 開会挨拶</p>
事務局	<p>3 議 題</p> <p>(1) 「第 3 次所沢市地域福祉計画の進捗状況（令和 6 年度実績）について」</p> <p>資料 1 により、第 3 次所沢市地域福祉計画の令和 6 年度の実績を報告。</p> <p>【概要】</p> <p>全体の達成率としては、4 . 5 % 減。主な要因は、所管課の集計方法の見直しや相談件数関連の指標が減少したことによるもの。ただし、相談件数はコロナ禍明け以降、減少傾向にあるものの、複雑で多様な案件が増えており、依然として支援員にかかる負担は大きいと考えられる。また、物価の高騰が懸念される今、特に困窮する世帯を取り巻く社会的状況は楽観視できるものではなく、住まいや食料に関する支援は、誰もが当たり前に地域で生活する上で不可欠かつ持続的に行う必要があることから、「フードドライブによる支援回数」「住宅・住環境に関する施策の満足度」の実績値が減少あるいは低値で推移している点は注視していきたい。</p> <p>一方で、「ところざわほっとメール登録者数」「社会福祉協議会による出前講座の利用件数」などは一見減少傾向だが、新規の情報配信開始やイベントの共催やスマホ教室の展開など通じて、試行錯誤しながら実質的に向上している。</p> <p>今後、地域福祉課題の解決のためには、関係各課や機関同士の連携が不可欠であり、また、新たな支援の担い手の育成も重要となっている。行政・企業・地域の活動団体・住民それぞれの主体が「支援を継続していくためにできること」を引き続き模索し、取組んでいくことが求められている。</p>

中島委員長	<p>現在の目標値は令和元年度、コロナ禍前に決めた値となっていることから、現状と大きなずれが出てしまっている。</p> <p>コロナ禍で停滞した中で、実績値が戻ってより目標値を上げた「子ども食堂等子どもの居場所の設置数」の項目や実績値が戻っていない「応援します！地域福祉活動事業の助成件数」の項目もある。なにか意見がある方はいるか。</p>
田中委員	<p>更生保護サポートセンターにおける活動件数の項目に関連して、人間市・狭山市・三芳町の住民が利用しがたいことから、各市町に更生保護サポートセンターの分室として設置された。分室ができた後も、所沢市では引き続き平日、委員が常駐するようにしている。</p>
中島委員長	<p>近隣市町村で新設されると数値が減少することはよくあることで、悪いことではない。避難行動要支援者名簿の登載同意者数について、対象要件に変更があったとあるが、年齢などの基準に見直しがあったということか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
中島委員長	<p>コミュニティソーシャルワーカー（CSW）による総合的福祉相談支援件数について、集計方法の見直しがあったとあるが、どんな内容なのか、高橋委員いかがか。</p>
高橋委員	<p>案件が複雑・複合化している中で、本人からではなく、近隣住民や自治会、民生委員から相談を受けることも多く、本人と面識がない場合もある。今回からは本人と対面で相談があったものを件数として集計するように変更したものである。</p>
中島委員長	<p>令和6年度の福祉の相談窓口への相談件数が減った理由はわかるか。</p>
高橋委員	<p>相談窓口の担当課に聞き取りをしたところ、コロナ禍で利用ができていた生活困窮者の特例貸付の制度が終了したことが要因と考えられるとのことであった。</p>
中島委員長	<p>東京都では生活困窮者は増えていて、倒産件数も増えていると聞いている。相談件数が減っていても様々な状況の人が増えていると思う。</p>
村澤委員	<p>相談件数というのは、相談があったら1件としているのか、それともある程度、解決に向けて道筋をつけられたら1件としているのか。</p>
高橋委員	<p>相談を受けて、お名前などの聞き取りをしたら1件としている。</p>
中島委員長	<p>「応援します！地域福祉活動助成事業」の助成件数が目標値60に対して、令和6年度実績が28となっており、コロナ禍で休止した団体が高齢化のために再開できておらず、申請件数が減少していることが気になる。高齢者の活動を中心にコロナ禍を明けてもまだ</p>

	戻ってきていないことは委員会として注視していかなければならない。介護予防の取り組みとして、大倉委員はどう感じているか。
大倉委員	お達者クラブなどの担い手も高齢化し減少していると感じる。地域包括支援センターとしても地域資源の立ち上げを行っているが、参加希望者が非常に少なく、たとえ希望者がいても活動できる場所がないこともある。
中島委員長	住民の中でのつなぎ役が大事であると考えているが、その人達が今弱ってきているのではないか。
大倉委員	住民のつながりが薄くなっていることは感じている。介護保険サービスが充実したことで、近所の集まりではなく、車で迎えに来てくれるデイサービスに行くケースも多い。
中島委員長	民生委員の改選が今年予定されており、所沢市は現在充足率 93.4%であるが、担い手の問題はどうか考えているか。
赤坂副委員長	民生委員になってくれる若い人は少なく、高齢化が進んでいる。民生委員の業務も多様化しており、各民生委員も手一杯になりながらやっている。
中島委員長	40歳以下の方の民生委員への理解度は非常に低いというデータもあり、若い人に入ってもらうことは難しい状況にある。
赤坂副委員長	最近、自分が所属する地区では40代の方が入ったので、これに続いて若い人が入ってくれることを期待している。
中島委員長	地域のつなぎ役や担い手の人が地域で声掛けをすることで、地域の活動に参加できる人が増えることはある。団体の申請をして活動するというのは、つなぎ役や担い手の人でなければいけないことだと思うので、本委員会としても大事にしたいテーマである。
事務局	<p>(2) 「第4次所沢市地域福祉計画の策定に係るアンケート原案について」</p> <p>第4次所沢市地域福祉計画の概要を説明した後、資料2を基に、アンケートの原案について説明。</p> <p>【概要】</p> <p>第4次所沢市地域福祉計画の策定に当たっては、「市民アンケート」「団体アンケート」「団体ヒアリング」「地域ヒアリング」の4つの手法をとって住民からの意見抽出を行う。そのうちの「市民アンケート」「団体アンケート」の内容について、事前に各委員から意見をもらい、それに踏まえたアンケート案を共有した。</p>

中島委員長	なにかお気づきの点はございますか。
大倉委員	住んでいる地区を選んでもらう設問について、自分が住んでいる地区をわからない人が多いと思う。
事務局	どの町名がどの地区であるかわかるような説明を入れるようにする。
田中委員	地区ではなく、町名を記載してもら方がいいのではないか。
事務局	Webでの回答も予定していることから、選択式の方が回答しやすいと考える。説明を加えて、どの地区を選んだらいいか困らないようにする。
中島委員長	Webでの回答を取り入れることで回答率が上がることを期待したい。 荒井委員なにかご意見ありますか。
荒井委員	このようなアンケートがあることを初めて知ったので、所沢市が福祉に真剣に取り組んでいる姿勢を感じた。
中島委員長	アンケートに答えることで市民参加となるし、所沢市が福祉に取り組んでいることを知ってもらう機会にもなる。 古賀委員なにか意見はあるか。
古賀委員	アンケートはどれくらいの対象者へ発送することを想定しているのか。
事務局	14歳から18歳が500人、19歳以上が3,000人、団体が100件を予定している。 14歳から18歳については、もう少し増やすことも検討している。
中島委員長	他になにかあるか。
大倉委員	団体アンケートの対象となる市内で活動しているボランティア団体は具体的にはどのような団体か。
事務局	所沢市ボランティア連絡協議会（V連）に加盟している団体を中心に考えている。
中島委員長	吉田委員なにか意見はあるか。
吉田委員	社会福祉法人だと市内在住ではない方も多く勤務していると思うので、回答者が市外に住んでいる方になってしまうのではないかと。

中島委員長	団体の選定や通知の送付内容を考える必要があるだろう。 渡邊委員なにか意見はあるか。
渡邊委員	回答の中に個人情報が多く含まれると思うので、この情報がどう扱われるか詳細に説明を入れる必要がある。また、障害者目線での配慮も必要である。
中島委員長	研究倫理というものが今大事にされていて、アンケート答える方が不利益にならないように、負担を感じないようにしなければならない。アンケートの中に目的外利用はしない、個人情報は守られることを記載することが大事。事務局よろしいでしょうか。
事務局	そのように対応する。
中島委員長	続いて、地域ヒアリングについて、説明を願う。
事務局	資料3「地域ヒアリング」を基に説明。 【概要】 地域ヒアリングは、住民参加で住民主体の活動や地域で埋もれがちなニーズを把握し、内容を計画に反映すること目的とする。グループワークで共通テーマ・個別テーマについて、課題出しや取り組み内容を検討してもらう予定である。
中島委員長	第3次地域福祉計画策定の際には、社会福祉協議会の懇談会を利用していたが、第4次では地域ヒアリングとして実施するとのことの良いことであると思う。
事務局	<u>(3) 第4次所沢市地域福祉計画の策定にかかるスケジュールについて</u> 資料4を基に計画策定に向けてのスケジュールを説明。 【概要】 「地域福祉推進委員会」「成年後見制度推進検討委員会」「地域福祉活動推進会議(社協)」「庁内地域福祉推進連絡会議」のそれぞれの会議体でいつ会議が行われるか共有した。担当者部会の立ち上げについては、庁内地域福祉連絡会議の中でさまざまな意見が出たため、今後調整していく。
村澤委員	今回の計画策定に向けて、財政部局と調整はできているのか。
事務局	周辺自治体の実施状況等も参考にし、計画策定に掛かる経費は予算計上している。
事務局	<u>(4) 「その他」</u> 【地域協議会について】 社会福祉法人の地域公益事業実施の際の意見を聴く場である「地域協議会」について、所沢市では本委員会が同協議会に該当する。例年、第1回目の本委員会において実績の有無を報告しており、本年度実績はなし。

高橋委員	<p>【社協配付物について】</p> <p>以下の配布物について高橋委員から説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの居場所についてのチラシ
事務局	<p>【次回会議日程】</p> <p>令和7年11月28日(金)、午前10時~</p>
赤坂副委員長	<p>4 閉会挨拶</p> <p>赤坂副委員長が閉会の挨拶をした。</p> <p>5 閉 会</p>